

中国での国際会議



国際会議について

私が参加した ICAST2011 は、学生による国際会議という趣旨のもと、高度な科学技術の様々な分野における若手研究者の相互理解、学術交流を目的としています。山東大学と熊本大学が中心となって 2008 年より始まり、今回で第 6 回目を迎え、過去にはソウルやトルコなど様々な所で開催されてきました。ICA2011 には、世界各国から 200 人以上の参加があり、100 以上もの発表がありました。

研究の概要

私の研究室では、大型セラミックス製ロールについての様々な研究を行っています。今回の学会では、連続溶融金属めつき用ロールについて

機宇 H22 酒井 悠正

の研究を発表しました。このロールは、自動車などに用いられる鋼板にめつきをするための、めつき浴中ロールです。現在、使用されているロールのほとんどが鋼製であるため、耐食性などの問題から、頻繁なメンテナンスが必要で、セラミックス製ロールにすることで、これらの問題改善が期待できますが、セラミックスは靱性が低いなどの欠点もあります。

そこで本研究では、セラミックス



写真 1 発表の様子

製ロールを溶融金属に浸漬する際の熱応力等を、有限要素法を用いた解析により検討しました。

英語での発表

国内での学会は経験したことはありませんが、英語での発表は今回が初めてでした。私は、英語が得意ではないため、指導教員の野田尚昭先生に原稿の修正や、発表についてのご指導をいただきました。そのため、どうにか無事に発表を行うことができました。しかし、質疑応答では、予想していない質問があったため、あまりうまく答えることができませんでした。また、海外の学生の発表を聞いて、英語のレベルの高さを感じ、もっと英語を鍛えなければならぬと思いました。

山東大学について

写真 1 は、たまたま隣に座っていた山東大学の学生に、英語でお願いして撮ってもらいました。

私が発表を行った山東大学は、中国の山東省済南市にある中国で最も歴史のある有名大学の一つであり、キャンパス・分校も多数もっています。学会中には、山東大学の学生ボランティアがキャンパスの案内やイベントなどを行ってくれました。い



写真 2 カンフー演舞 (山東大生)

学会を通して

今回の学会を通して、英語の大切さを改めて実感しました。私は学会に学生は 1 人で参加したため、学会中のコミュニケーションは、ほぼ英語でした。滞在したホテルはツインルームで、一緒だった中国人の学生は現在、イギリスバース大学の Ph.D 課程に在学中の方でした。私が片言の英語で話かけると、気さくに話してくれ、とても仲良くなりました。できないながらも積極的に話せば、相手も理解してくれるのだと感じました。

最後になりましたが、奨学金を援助していただいた明専会に厚くお礼申し上げます。

(三菱化学株)